

編集後記

今月号の特集は“ファンリテーション・テクニックの再検討”である。これが、わが国のリハビリテーションの世界に登場してから、早くも10年以上経過した。しかし、その評価は必ずしも一致した見解をみいだせるには至ってない。いずれにせよ、治療対象となる中枢神経障害を完治させ得る方法は現状ではありえない。そのため、障害の3つのレベルに応じたアプローチを個々の症例により、適宜、選択して加えていく必要がある。広く行われている現存するテクニックの活用をいかにすべきか、その有効性、問題点を謙虚に消化することは、さらに秀れた治療法の開拓につながる課題であると考え、この特集を企画した。

大川氏は現状の核となる部分を分り易く、解説された上に、今後の課題として、各種のテクニックの統合化の必要性を強調されている。

福田氏は片麻痺に対する Bobath 法導入の利点を評価を中心に述べられている。職種により、有効性について評価度が異なる点をあげておられる。これは興味深いことではあるが、未だ科学的な立証が不十分である側面をあらわしている結果かもしれない。三好氏は臨床経験を通じて、Bobath 法を強烈に批判し、Hirshberg の非麻痺肢強化を優先する方法が現実的なものであると強調されている。梶浦氏は CP 児に対する Bobath 法導入の利点を述べておられる。今後、厳密な有効性を評価できる客観的なデータを、お示し頂き、お教え頂ければ幸いである。児玉氏は

Vojta 法に対する反省を follow up study を通じてなされている。一度、提唱された私見を修正することは、一般にかなりの抵抗があることであるが、この科学者としての先生の謙虚さに頭が下がる思いがし、敬意を表する。

執筆して頂いた5名の先生方にはいずれも力作を頂き感謝にたえない。厚く御礼を申し上げる。

以上を通読すると、現状では、このテクニックの活用法などにかかなりの考え方に差があることは否定できない。今後、科学的な建設的な論議の展開を、本誌のみならず、多くの場で、継続して行っていくべき重要なテーマであらう。

研究と報告など2篇とも、リハ医療にとって重要である片麻痺の亜脱臼肩、脊損の褥瘡に関するものは、日常の診療に有用な価値ある論文である。

講座も価値あるものが並んだ。特に物理療法はリハ医学のルーツともいわれるものだけに今後さらに発展せねばならない分野である。

今回は、石神氏に極直に對するものをお願いしたところ、幅広い観点から執筆して頂き、参考となる点が多い。

本号は読みごたえのある内容の号となった。

特集は特に物議をかもしだす可能性のあるものかもしれないが、読者の皆様のご期待に沿えるものと確信している。

(緒方 甫)

編集顧問

天 児 民 和
大 島 良 雄
河 邨 文 一郎
五 味 重 春
砂 原 茂 一
津 山 直 一
土 屋 弘 吉

編集委員

明 石 謙
上 田 敏
緒 方 甫
大 井 淑 雄
大 川 嗣 雄
千 野 直 一
横 山 巖

編集同人

赤 津 隆
今 田 拓
今 村 哲 夫
岩 倉 博 光
江 口 壽 榮 夫
小 川 孟
荻 島 秀 男
奥 川 幸 子
加 倉 井 周 一
小 島 蓉 子
齊 藤 正 也
笹 沼 澄 子
澤 村 誠 志
高 橋 勇
高 松 鶴 吉
武 智 秀 夫
土 屋 和 夫
土 肥 豊
永 井 昌 夫
中 村 隆 一
野 島 元 雄
野 村 歆
長 谷 川 恒 雄
初 山 泰 弘
福 井 園 彦
松 村 秩
三 島 博 信
矢 谷 令 子
米 本 恭 三
渡 辺 英 夫
(五十音順)

総合リハビリテーション (第14巻 第3号)

1986年3月10日発行 (毎月1回10日発行)

1部定価 1,650円 (配送料60円)

(年ぎめ予約購読料 18,480円)
(送料弊社負担)

発行 株式会社 医学書院

代表者 椿 孝雄

〒113-91 東京都文京区本郷5-24-3

電話 受付台 (03) 817-5600

本誌編集室直通 (03) 817-5704

(担当: 山田・細田)

販売部直通 (03) 817-5659・5660

ファクシミリ (03) 815-7802

振替口座 東京 7-96693番

印刷所 三報社印刷(株): 電話 (03) 685-3131

広告申込所 (株)東広社: 電話 (03) 409-8803

Published by IGAKU-SHOIN Ltd. 5-24-3 Hongo, Bunkyo-ku Tokyo © 1986, Printed in Japan.
本誌の内容を無断で複写・複製・転載すると、著作権・出版権の侵害となることがありますので御注意下さい。